

学 習 指 導 案

科 目	ビジネス基礎	単元名	第4章企業活動の基礎 2 資金調達
単元の目標	企業の形態と経営組織、資金調達、企業活動と税、雇用の形態と雇用に伴う企業の責任を取り扱い、企業活動に関する基礎的な知識を習得する。		
本時の目標	資金調達の方法として、株式の発行や金融機関からの借入れなどがあること及びその特徴について知る。		
本時の目標 (評価規準)	①企業活動に関心を持ち、その資金調達方法を探求しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ②資金調達の基礎的・基本的な知識を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。 【思考・判断・表現】		
過程	指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
導入 10分	<導入> ・本時の説明 ・必要資金を計算させる	Q1 活動に必要な資金はいくら集めたらよいだろうか。 ・グループになり、企業の名前や活動内容を決め、ワークシートに記入する。 ・その起業に必要な資金額を考える。	・グループメンバー各4人を決め起業内容を考えさせる。 ・金融機関メンバー8人を選び、役割を与える。 (参考資料1) [評価] 積極的に参加できているか。目標① <評価方法> 行動観察
	・必要資金の集め方を金融役割の生徒に説明させる。 ・銀行借入れ ・社債の発行 ・株式の発行 ・ノンバンク借入れ ・エンジェル資金提供	Q2 必要資金の調達方法を知りましょう。 ・金融機関の役割分担の生徒が、それぞれの金融の特徴をPRを兼ねながら説明する。 ・ワークシートにそれぞれの金融機関の特徴を、短所と長所とに分けて記入する。	・各会社の運営に必要な資金額を算出させる。 ・資金集めの方法を説明する生徒の補足をする。(参考資料2) [評価] ワークシートに記入できるか。目標① <評価方法> ワークシート ・各会社の財政状態を示す貸借対照表カードをランダムに配る。タイプは2種類。(参考資料3)
展開 35分	・各会社の資産状況のカードを渡し、資金調達方法を考えさせる。 ・金融機関に対するプレゼンテーション内容を考えさせる。 ・金融役割の生徒に、資金提供してもよい企業の発表には、挙手させる。 ・ビジネスエンジェルに融資先を発表させる。	Q3 必要資金の用意をしましょう。 ・各会社で資産状況に応じて、資金調達方法について話し合う。 ・金融機関に対して、会社の経営理念と業務内容をプレゼンテーションする。 ・金融機関が手を挙げるのを見て、借入先を決める。 ・資金が調達できるまで、借入れ手続きを続ける。 ・借入れ後の会社の貸借対照表を作成する。 ・ビジネスエンジェルとして興味深い活動内容の企業一社に融資することを発表する。 ・借入後の会社の貸借対照表を作成する。	・借り手と貸し手がマッチングするまで、資金調達を続けさせる。 ・企業にとり、調達資金は、資本または負債に取り扱われることを説明する。 [評価] 資金調達に参加できたか。目標② <評価方法> 行動観察
	・経営活動に必要な資金の分類を理解させる。 ・資金調達の方法を確認する。 ・資金調達方法を評価させる。 ・ワークシートを完成させる。	・ワークシートに、必要資金を分類に従い記入する。 ・自分の企業の資金調達方法が適していたか、評価する。 ・ワークシートの記入をする。	・運転資金と設備資金を理解させる。 ・他に資金調達の方法がないかと、発展問題を問う。 インターネットを通じて小口の個人資金を集めるクラウドファンディングを紹介する。iPS細胞研究資金を集めた例などを紹介する。
まとめ 5分			